

令和7年12月吉日
(2025年)

保護者の皆様

吹田市立片山小学校
校長 金崎 栄一

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、過日、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表する運びとなっております。

この調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科は国語、算数、理科に限られたものです。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつも、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた指導法の工夫改善に努めてまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。(本内容は学校ホームページにも掲載し、広く公表しています。)

1 教科に関する調査の分析

【 国 語 】

(1) 概要

- 全体の平均正答率は、全国値をやや上回っている。
- 知識及び技能に関する事項については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の三領域にわたって、平均正答率は全国値をやや上回った。
- 思考力・判断力・表現力等に関する事項については、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率が全国値をやや上回っているものの、「読むこと」「書くこと」の二領域については、全国値をやや下回る結果となった。
- 問題形式別(選択式・短答式・記述式)では、記述式の平均正答率が全国値を下回っており、「書くこと」に対する苦手意識がうかがえる。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

言語の特徴や使い方に関する事項

◇「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

情報の扱い方に関する事項

◇「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値をやや上回っている。

我が国の言語文化に関する事項

◇「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

話すこと・聞くこと

◇「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか」をみる問題や、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうか」をみる問題については、平均正答率は全国値をやや下回り、無解答率もやや高い。

書くこと

◇「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値をやや上回っている一方、無解答率がやや高い。

◆「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表した方を工夫することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は全国値を下回っている。特に、記述式の問題においては、無解答率も高く、課題が見られる。

読むこと

◇「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国地をやや上回る。

◆「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうか」をみる選択式問題については、平均正答率が全国値を上回っているものの、記述式問題の平均正答率は、全国値を下回っている。記述することへの苦手意識がうかがえる。

(3) 国語科における今後の改善点について

- ・「話すこと・聞くこと」に関する学習活動において、発言の意図や、目的に応じた発言の仕方などに留意して考える機会を意識して設ける必要がある。
- ・「書くこと」に対する苦手意識、条件に応じた作文への課題が見受けられるため、日常の学習の中で、書く活動を多く設け、自らの書いたものを、目的や意図に応じて適切かどうか、推敲したり、友達と互いに交流したりする学習を充実させていく必要がある。
- ・「読むこと」の学習活動のなかで、語句と語句の関連や、図表等の資料と文章表現との関連をとらえ、言語化する機会を充実させていくとともに、読み取ったことは、一定条件のなかで文章化する機会を設定していく必要がある。
- ・漢字については、同音・同訓の漢字の使い分け、言葉の意味と使い方を考える機会を多く設け、語彙力をつける活動を積み重ねていく必要がある。

【算数】

(1) 概要

- ・全体の平均正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・「数と計算」「図形」「測定」の三領域に関する問題の平均正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・「変化と関係」「データの活用」の二領域に関する問題の平均正答率は、全国値を上回っている。
- ・問題形式別（選択式・短答式・記述式）では、選択式・短答式の平均正答率は、全国値と同等である。記述式の平均正答率は全国値を上回っているものの、その割合は過半数に達していないことから、全国と同じ課題がうかがえる。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

数と計算

◇「異分母の分数の加法の計算をすることができるか」をみる問題の平均正答率は、全国値をやや上回っている。

◆「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を下回っている。説明の記述に課題が見られた。

図形

◇「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうか」、
「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかそうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆「台形の意味や性質について理解しているかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を下回っている。図形の意味や性質の理解に課題が見られた。

測定

◇「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆「はかりの目盛りを読むことができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を下回っている。

変化と関係

◇「『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆上記問題の平均正答率は全国値を上回っているものの、正答率は4割強である。

データの活用

◇「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆上記問題の平均正答率は全国値を上回っているものの、正答率は3割5分である。

(3) 算数における今後の改善点について

- ・「数と計算」では、計算の意味や性質の理解が深まるよう、その方法を説明する機会設定や、分数の意味を図や具体物で表現する活動を充実させていく必要がある。
- ・「図形」では、観察や具体的な操作活動をとおして、図形の意味や性質を考える活動の充実を図っていくことが大切である。
- ・「測定」では、日常生活に結びついた学習場面の工夫・設定が必要である。
- ・「変化と関係」では、割合で表す良さを実感できる学習場面の設定や、目的に応じて式やグラフなどを用いて表現・説明する活動を充実させていく必要がある。
- ・「データの活用」では、グラフや式の意味理解とともに、それらを比べ、同じところや似ているところなどを見だし、考えたことを説明する機会などを充実させていく必要がある。

【 理 科 】

(1) 概要

- 全体の平均正答率は、全国値をやや上回っている。
- 「エネルギー」「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、全国値を上回っている。
- 「生命」を柱とする領域において、顕微鏡の操作や実験の条件を問う問題の平均正答率は全国値を上回っている。一方で、花のつくりや受粉の知識、実験結果から課題を見だし表現する問題の平均正答率は、全国値を下回っている。
- 「地球」を柱とする領域の平均正答率は、全国値を上回っている。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

エネルギー

◇「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

粒子

◇「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を下回っている。

生命

◇「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についているかどうか」「ヘチマの種子が発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

◆「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうか」「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を下回っている。

地球

◇「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうか」をみる問題の平均正答率は、全国値を上回っている。

(3) 理科における今後の改善点について

- 「エネルギー」「粒子」の領域では、例えば、身の回りの金属が電気を通すものなのか、磁石にひきつけられるのかなど、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、知識を深められるよう実験や考察する機会を充実させていく必要がある。
- 「生命」の領域では、例えば、花のつくりや受粉などの理解が深まるよう、観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら、知識の定着を図っていく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向 (良好○ 課題●)

(1) 家庭生活について

○「朝食を毎日食べる」では、肯定的回答が約9割を超えており、全国値と同等である。

●「毎日同じくらいの時刻に寝ている」では、肯定的回答が約8割を超えているものの、全国値をやや下回っている。

(2) 自分自身のことについて

○「自分には、よいところがあると思う」では、肯定的回答が8割5分を超えており、全国値と同等である。

●「将来の夢や目標を持っている」では、肯定的回答は約8割で、全国値をやや下回っている。

(3) 学校生活・学習について

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」では、肯定的回答は9割を超えているものの、全国値をやや下回っている。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」では、肯定的回答は約8割5分で全国値を上回っている。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、肯定的回答は約8割だが、全国値を下回っている。

●「国語、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」では、肯定的な回答が約8割5分で、全国値を下回っている。

3 今後の取り組み

☆学 校 目 標 「自ら学び、命と人権を大切にする、すこやかで心豊かな子どもを育成する」

☆学力向上目標 「算数科の授業を通して、数学的な見方・考え方を働かせる子どもの育成」

【生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向を踏まえて】

- ・「朝食を毎日食べる」の項目では、全国値と比較すると肯定的回答の割合が高い結果となりました。一方で「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の項目では、全国値をやや下回りました。子どもたちが1日を元気で活動するためには朝食と睡眠が何より重要です。引き続き、保護者の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。
- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」という項目では、肯定的回答が約8割でした。子どもたちが夢や目標をもって生きていくためには、やりとげた達成感を味わう経験と、様々な人たちとの出会い・関わりが必要だと考えます。運動会、音楽会などの行事や、地域や専門的な方による体験的な教育活動の充実に努めてまいります。
- ・本市の取組である「いじめ予防授業」は6年目を迎え、継続して取り組んでいます。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目では、肯定的回答が全国値をやや下回る結果となりました。道徳教育や子ども一人ひとりの良さを引き出す教育活動を充実させ、豊かな心の涵養に努めてまいります。
- ・教科指導については「算数科の授業を通して、数学的な見方・考え方を働かせる子どもの育成」を目標に掲げ、子どもの主体性を大切に研究・実践に取り組んでいます。魅力ある授業づくりに注力してまいります。

保護者の皆様におかれましては、引き続き、学校教育に対するご協力・ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。